



## 生徒活動が活性化しています

校長 宮田卓郎

今年度は、4月から新型コロナウイルス感染症対応のため、非常に変則的な学校生活となりましたが、これまでの今年度の本校を振り返ってみて、特筆すべきこととして何を挙げるか問われるとそれは「生徒活動の活性化」であると言えます。生徒会活動では、5月の生徒総会において、10年振りとなる生徒会規約の改正が可決されました。このことにより、生徒会活動は、その時の気分や雰囲気で行われるものではなく、生徒会規約に基づいて行われていることへの理解を深めることができました。また、この規約改正により生徒総会に次ぐ議決機関である「全校代表委員会」を、学校の状況や開催することが必要と認められたときにいつでも招集できるようになり、生徒会活動の機動的な運用ができるようになったことは非常に意義深いものであったと思います。更に、規約改正を生徒自ら正式な手続の下で行ったことにより、全校生徒が自治活動のリアリズムを味わうこともできたのではないかと思います。

次に、この生徒総会では全体討議により「ステップアップ作戦」が議決され、最初のステップとして「3・2・1運動」の推進が可決されました。「3・2・1運動」は、3分前入室、2分前着席、1分前黙想を推進させようとする生徒の自治活動です。「あいさつ運動」に続く、全校生徒による組織的な共通の取組の一つです。「あいさつ運動」は現在の高校1年生の代の生徒会執行部が、現在の形で整理したものです。生徒会執行部からの「あいさつ」に対して「あいさつ」を返して、「あいさつ」が成立することを意識しての取組です。現在の3年生の代の執行部に確実に受け継がれ、更に現在の2年生の執行部に引き継がれて西階中学校の伝統になりつつあります。登校時に「あいさつ」をしてくれた、「あいさつ」を返してくれた生徒の実態を把握し、毎日給食の時間にその結果を還元しながら、全校生徒の「あいさつ」に対する意識付けをおこない、明るく元気な西階中学校にしていこうというものです。

先ほど紹介した「3・2・1運動」の取組も、2学期より月間のコンクールとして本格的に動き出しました。現在は、日常の活動として、生徒会執行部と各学級役員が連携して取り組み、その状況を評価して、結果を給食時の放送で全校生徒に還元し意識を高めています。この取組により業間（授業と授業の間の準備の時間）と授業の切り替えが非常によくなり、学びの空間としての規律が高められています。

次に、キャプテン会です。キャプテン会は各部活動のキャプテンから構成される会です。生徒会規約では、生徒会組織の中にキャプテン会が正式に位置づけられています。現在、実際的には第2学年生になりますが、このキャプテン会が定例の会を持ち非常に活性化しています。このキャプテン会で話し合われ、「正義が通り、周りから愛される部活動を目指して」のスローガンが決定しました。校内に常時掲示することになっています。

最後に、「師走」とは、陰暦12月のことでの年末になるとよく使われるで馴染み深い言葉であるともいえます。なぜ、このように言われるようになったかについては諸説あります。この月になると家々で師（僧侶）を迎えて読経などをを行うため、師が忙しく走り回るため「師馳せ月（しじせつき）」が語源になっているという説もありますが、現在は新暦の12月で使われるようになっています。いよいよ令和2年も残すところあとわずかになってきました。2学期の総括を行うとともに、3学期に向けての抱負を考える時季です。今年度は、新型コロナウイルス感染症対応に伴う長期の学校休業期間があったこともあります。通知票は2回の配付となります。今学期末には配付されず年度末の3月の配付となります。

よろしくお願ひいたします。